

**日本サーバス関東支部会報 2008年8月2日発行**

日本サーバス関東支部事務局 支部長: ○○○○

(issued by ○○○○)

年会費 3000 円 郵便口座(Post Office Account No.): 00170-9-725193 日本サーバス関東支部事務局  
(Nihon Servas Kanto Shibu Jimukyoku)

**群馬例会のお知らせ**

いつ: 8月23日(土) 15:00~18:00~24日(日)

どこで: 富士見温泉ふれあい館(赤城山中腹)

JR 前橋駅より、ふれあい館行きバスで 50 分  
当日連絡先:

- \* 23日(土)は「ふれあいの湯」で入浴後、ミーティング、夕食をとります。温泉代、夕食代実費。
- \* 宿泊する方は、Sさんの山小屋へ移動します。宿泊無料、食料品持ち寄りをお願いします。
- \* 24日(日)は、希望者は赤城山(日本百名山、標高1820メートル)へSさんの案内で登山となります。赤城山のルートは、ただ歩くだけの人、ちょっとだけハイキング等いろいろなコースがあるのでだれでも参加できる場所です。ハイキングの準備でご質問のある方はSさん(☎○○○○)にご相談下さい。
- \* 参加する方は事前に支部長までご連絡下さい。一緒に行ける方はまとまって行きましょう。
- \* Gunma Meeting will be held on August 23, 2008, 15:00-18:00, at Fujimi Onsen Fureai-kan, 50 min. bus from JR Maebashi Stn. Hiking to Mt. Akagi on August, 24. For details or if you would like to join the Gunma Meeting, please contact Tateno (e-mail, Tel or Fax above).

**6月横浜例会の報告**

いつ: 6月15日(日) 午後2時~4時半

どこで: 男女共同参画センター横浜(フォーラム)

参加者: 10名

- \* 新入会員を含め、各自の自己紹介及び近況報告
- \* T氏のインド訪問報告: 高齢のバイ・パリク氏のインタビューでの苦勞、パリク氏のアシュラムの様子、ガンジーの資料館のことなどについて話してもらいました。後日、パリク氏のインタビューについては、またDVD等で回覧できるようにしていただきます。インドサーバスでは同じ人が役得のため役員を続けている問題が問題とのインドサーバス会員の声があるとのことです。
- \* T氏はインドにてバルセロナ国際会議のテープを入手し、国際サーバスの内容やルールに不透明感を感じたとのこと。日本からも国際サーバスへの意見を伝え、透明性を高めるべき活動していくべきでは。

じたとのこと。日本からも国際サーバスへの意見を伝え、透明性を高めるべき活動していくべきでは。

\* サーバス会員の名刺の試作をT氏が作成してくれましたが、英語版であったため、やっぱり日本語が欲しいということになり、名刺の裏の理念の日本語翻訳版を作ることになりました。

- \* T氏は、家を作るボランティアグループ、habitatの方と会い、協力できる活動等を話す予定とのこと。
- \* サーバスの会員同士の交流には安心感があり、国内の会員同士も交流も必要では。今後のサーバス活動において、サーバスの理念の再認識必要では。

**フランス人トラベラー を受け入れて**

江東区 M

5月11日~13日、フランス・パリから20キロほど西にお住まいの会社員、エマニュエルさん・カトリヌさんご夫妻が我が家にホームステイされました。40代前半のご夫婦で、世界中を旅行されているそうです。お二人が知り合われてから10数年間、訪れた国はヨーロッパをはじめ、北米、南米、アフリカ、東南アジアなど、数え切れないほどでした。

日本ではメディアを通してフランスのイメージが「芸術やファッション」に固定されている中で、彼らの訪問は私達に「家族愛の国」という大切なイメージを与えてくれました。アムール(愛)の国といわれるように、フランスでは家族愛をとっても大切にされるそうです。お二人によると、仕事の後はまっすぐに家へ帰り、家族と過ごすのが一般的であり、一部の管理職を除き、一般的には残業もないそうです。また、住まいに近い場所に職場を選び、6週間に1度は約50キロ離れた両親を訪ね、バカンスには1ヶ月またはそれ以上の時間をかけるなど、「家族と過ごす豊かな時間」を満喫している様子が印象的でした。

物質的、金銭的な豊かさだけを追い求めるニュースが溢れる現代社会の中で、お二人との出会いは本当の豊かさとは何かという、当たり前のように忘れられかけていることを思い出させてくれるようでした。

また、お二人の会話から「アメリカの文化を否定

しているのではない」ということを聞き、心に残ったことがありました。「フランスには既に伝統的な文化が根付いている。そして歴史的・文化的背景が違う為に、それほどフランス文化に入ってこないだけ」ということだそうです。フランス人は外国の文化を否定し独自の文化を貫こうとしているのではなく、家族やカップルでのバカンスを大切にするなど、常に海外へ目を向けているようです。伝統を大切にしつつも柔軟に異文化と出会い視野を広げていく国民性を持ち、それはフランス人のすばらしさだと思います。

今回の日本滞在中、お二人はお祭り、温泉などのほか、日常に存在する様々な日本文化に触れられましたようです。「何よりもサーバスの人々との交流が、私達の日本での経験を豊かにした」という言葉を聞いて、草の根レベルでの国際交流、一つ屋根の下での国際交流の大切さを改めて感じました。

2008年は日本とフランスの最初の日仏修好条約となる安政の五カ国条約(1858年)が結ばれて150周年の年。現在に至って、日仏ともに様々な問題を抱えています。当時のフランスを訪れた先人の努力を私達の時代につなげて、サーバスから生まれる平和の輪を少しずつ広げていきたいと思えます。

## スペイン冒険旅行

—マドリッド・グラナダ・バルセロナ— N

スペインを一人旅することになった。2007年12/3～21までの18日間。いざ、憧れのスペインへ。

最初のマドリッドではMirtaのマンションに宿泊。フリーで翻訳の仕事をしていて、17歳の息子のDarioと愛犬との3人暮らし。プラド美術館やソフィア芸術センターでピカソのゲルニカを観たり、古都トレドの半日観光をしたり・・・ここまでは“世界遺産をめぐるスペイン8日間の旅”と同じだった。

次のグラナダへは飛行機で行く予定だったが、Mirtaがバスの方がずっと安いし、時間もほとんど変わらないと勧めるので、予定変更してバスを利用。グラナダへは午後2時発のバス。マドリッド最大の長距離バスターミナルに着き、電光掲示板を見るとグラナダ行きが14:30発になっていた。列の一番後ろの女性に聞くと「他のバスが2時で、ここが2時半なのよ」と言う。(後でわかったことなのだが、スペイン人は知らないことでも『～と思う』という言葉をつけないのだ) 2時半に地下のバス停に下りたがバスが来ないので、窓口で聞くと「2時発のバスはもう出発した。次の3時は満席。次の4時半なら席がある。」と言う。えー！！このチケットを4時半ののに換えてと言うと、乗らなかったのはあなたのミスだ。押し問答したが負け、仕方なくもう一度チケットを買うはめになった。Por que? (どうして?)と頭が真っ白。時間も有り余るほどできてしまったので、ターミナル内のバル(カフェ兼居酒屋)のカウンターでバックを置いてワインを飲み、テレビをぼーっと見る。その間5、6分。あっと気づいた

時、足元のナップザックがない！残っているのは大きな旅行鞆とウエストポーチだけ。あわてて駅の警官(実はただの警備員だった)に泥棒だ、捕まえてと頼む。一眼レフカメラとガイドブックとスペイン語辞書と薬と化粧品の入ったバックは二度と戻って来なかった。

グラナダではMirtaが電話で予約してくれた新しいユースホステルに宿泊。快適なはずが、バックを盗まれた怒りと不安で3日間よく眠れなかった。ガイドブックもないのでこの店がいいのかもよくわからない。世界遺産のアルハンブラ宮殿の写真も撮れない。唯一夜、マドリッドのMirtaに電話した時だけが安心で楽しい時だった。

翌日アゼルバイシンの展望台で、日本人の若い女性3人組と出会い、事情を話すと、親切に色々教えてくれた。半日一緒にグラナダを観光した。彼女達の一人もスペインの空港に着いた時、旅行鞆が行方不明になり苦労したらしい。保険会社のお金を出してもらうため、領収書を店員に頼むとスペイン人は毎回面倒くさがって嫌がる。「スペイン人、仕事しないよね～」が私達の合言葉だった。

バルセロナに行けばなんとかなる。バルセロナのホストの書いてあるサーバリストだけを頼りに私は旅を続けた。バルセロナのホストRuthの家や周りの通りは19世紀の街並みそのままだった。バルセロナは海に面し、古い建物が沢山残っている美しい街だ。念願のカメラも買い、携帯電話もVoderfoneの店でチャージして使えるようになった。グラナダではVoderfoneの店が一軒で、しかも昼休みが2時～5時(3時間も！)。

バルセロナは都会なので、昼休みは一時間半位。やっとまともな所に来たという感じだ。バルセロナの世界遺産も本場のサッカーもゆっくり楽しむことができた。Ruthもオープンでいい人だった。旦那さんのSamuとケーキ作りの小さな会社を経営していて(彼女が社長)、レストランやお店にケーキを卸している。スペイン料理もとてもおいしく、Ruthにパン・コン・トマテの作り方を教えてもらった。

半年たった今、いい事も悪い事も全ていい経験だったと思える。一人でサーバス旅行をしなければ絶対味わえない旅。超マイペースなスペインの人達。でもMe gusta Espana! (スペイン大好き！)



写真左：世界遺産ウラガ・ファミリアは今も建築中  
写真右：バルセロナのRuthの家で